

## 千葉県立関宿城博物館

企画展 つながる 川と海と人～あそぶ・親しむ・守る～

開催期間：平成28年10月4日（火）～平成28年11月27日（日）



### 【企画展の目標】

- 海や川は、人々にとって脅威と恩恵の対象でしたが、江戸時代後期に「遊ぶ」意識が普及し、庶民の間でも魚釣りや潮干狩りなどが行なわれるようになりました。人々の、水に「親しむ」意識が時代とともに変化してきたことを感じていただき、海が人々にとって娯楽や癒しを与えてくれる大切なものであること、その環境を守ることがいかに大切であるかを考える機会とします。
- 河原や海辺の石や貝殻などを使い、海の生き物に親しみを覚えてもらえる体験教室として「石を魚に変身させよう!」、「貝殻工作」、「魚拓を作ろう!」（各1日開催）を行ない、海や川の環境を守る意識を体験し、楽しみながら学ぶ機会とします。

### 展示会場の様子



千葉県立関宿城博物館 外観



企画展会場 入口

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



これまでどのような「人と水のかかわり」があったのかを、海と川における漁業や利水、治水の様子について錦絵や写真などの資料で紹介しています。

また、時には災害をもたらしましたが、海や川は人々にとって常に身近で親しみがありました。水辺での祭りや生活の様子を紹介しながら、人々がさまざまな形で水と関わってきたことを概観しています。



人々にとって水辺は、庭園の景観を鑑賞したり、花火などが行われる会場だったり、観光の対象としての「癒しの空間」でした。釣りや潮干狩りなどが庶民の間に普及し、明治時代以降はスポーツという意識とともに「レジャーとしての親水」が一般化しました。海や川で楽しむ様子がわかる錦絵や古写真、レジャーの道具である釣り具やヨット、カヌーなどを展示し、海や川が人々にもたらす精神的な恩恵についても紹介しています。



昭和の高度成長期に公害などにより海や川を汚した反省から、人々は努力しきれいな水辺の環境を作ってきました。そこでの「変わる親水意識」から設置された親水公園や海浜公園とその利用などを紹介しています。また、再び「つながる 川と海と人」を目指す国と自治体や企業などの取り組みが、近年では一般市民を中心とした活動になっていることを紹介し、自分たちの手で自然環境を守ることを考えるきっかけとしています。

▽

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 関連事業の様子

### ■ 体験教室「海や川に親しもう」①石を魚に変身させよう！

【開催日時】平成28年10月8日（土） 11:00～12:00  
13:30～14:30

【開催場所】関宿城博物館エントランスホール

【参加者数】19名

【目標・内容】

- 子どもたちが海や川の生き物を工作することで、豊かな自然の中にある生き物について興味をもつ機会となることを目指しています。川原や海辺から集めた石を利用して、色付けして魚などの生き物を作りました。
- 利用した石は主に砂岩で、海辺や川原で拾うことができます。海辺などに流れ着いた石にも興味を持ってもらうことを目標としています。



自分で気に入ったかたちの石を選んでもらいます。魚に似た流線型に近い石もありますが、多くはそんなに都合のよいかたちのものではありません。選び終わったら、油性ペンで色付けを行いました。石に色付けして生き物に仕上げながら、海や川などの自然環境に親しみを持つ機会となりました。



子どもたちの感性と想像力で、どれも生き生きとした魚が完成しました。家族みんなで楽しく作業ができ、海や川が持っている自然の大切さを知る機会となりました。

## ■歴史講座「つながる 川と海と人-水都東京の歴史と再生-

【開催日時】平成28年10月23日（日）13:30～15:30

【開催場所】千葉県立関宿城博物館 集会室

【参加者数】28名

【目標・内容】

- 法政大学教授の陣内秀信氏を講師として招き、世界で類をみない多種多様な水辺空間をもつ東京と東京湾に流れ込む川や濠・運河・湾岸における親水を中心とした歴史を紹介するとともに、エコロジーの視点を持って講演することにより、未来に向かって人々が海や川とどう向き合っていくべきかを考える機会とする。
- 水都東京における親水の歴史を様々な角度から専門的に紹介することにより、海的环境保全と活用について、より理解を深める効果が期待される。



陣内先生の作成したパワーポイントの豊富な画像を使って、水の都である東京が発展してきた様子を紹介。東京は、水とつながってできた都市であること、しかも古さと新しさが調和した都市であることなどを解説され、身近に海があることの幸せや大切さを知る機会となりました。



江戸時代から現在の東京、そして未来に期待できる東京の姿を分かりやすく解説され、東京には海を感じながら生活することのできる空間があり、その発展に期待性があることを知る機会となりました。